次の文により 10，11 の問いに答えよ。

64 歳の女性。開口時の左側顎関節部の疼痛と開口障害とを主訴として来院した。初診時の左側顎関節部の開閉口時 MR 画像（別冊 p. 137 A，B）と治療用装置装着時の口腔内写真（別冊 p. 137 C）とを別に示す。

101C-10 MR 画像にみられる異常所見はどれか。1 つ選べ。

□□□
a 滑膜炎　　b 円板転位
c 円板後組織の穿孔　　d 関節結節の平坦化
e 下顎頭の変形

101C-11 治療用装置を装着する目的はどれか。2 つ選べ。

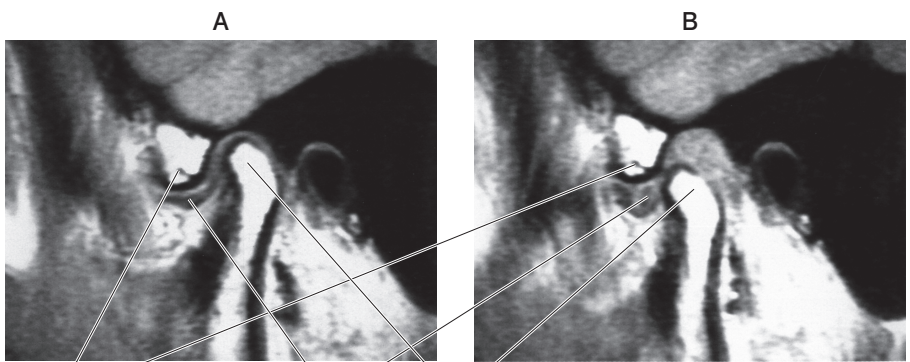
□□□
a 顎関節負荷の軽減　　b 咬合性外傷歯の判定
c ブラキシズムの発現防止　　d 咬合力の増大
e 閉口筋の緊張緩和

アプローチ

[C-10]

顎関節の MRI 像は，第 101 回（本問および 101B-44〔ANSWER Vol. 13 収載〕）で初出題となって以来，毎回出題されている。臨床の場でも，顎関節疾患には欠かせない検査となっていることからも，顎関節部 MRI の正常像と典型的な病態像の確実なインプットは，もはや国家試験で必須の内容である。

画像診断



閉口時に関節円板は前方に転位しており，開口時にも円板は転位したままの非復位型関節円板前方転位（顎関節症Ⅲｂ型）であることがわかる。下顎頭や下顎窩には形態的変化はみられない

鑑別診断

・復位性関節円板前方転位（顎関節症Ⅲａ型）：この場合，閉口時は本問と同様の MRI 像をみるが，開口時には円板が復位する所見がみられるはずである

選択肢考察

×a，○b，×c，×d，×e　本問の MRI 像では，閉口時・開口時の双方で関節円板の前方転位が確認できる。本問の主訴である「開口時の左側顎関節部の疼痛と開口障害」とも一致することから，非復位性円板前方転位と判断される。

xhm0013_vol_⑫_14chap01-05④／再.indd　675　2024/05/14　14:47:34